

厚生労働副大臣
衛藤晟一

「グローバル化と若者の未来に関するアジア・シンポジウム」の総合議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。私からは、「グローバル化と若者の未来に関するアジア・シンポジウム」の趣旨についてご説明申し上げます。

まず、本シンポジウムのテーマは、「グローバル化と仕事の世界」及び「グローバル化と若年雇用問題」の2つであります。

グローバル化と仕事の世界

近年の急速なグローバル化は、世界中に新たな経済機会を創出し、成長を促進しています。アジアにおいても、こうした流れの中で、高い経済成長がもたらされています。その一方で、その利益を享受できない国々及び人々が多いことも事実です。人々の「仕事」という側面に着目した場合、やはりグローバル化の利益は十分に行き渡っているとはいえません。近代的な製造部門や情報技術部門などが活況を呈し、そうした部門に従事する人々の所得の増大をもたらす一方で、都市と農村間や地域間の格差が拡大するなど、人間らしい尊厳ある仕事に従事できる機会は未だ限られたものとなっています。

こうした中で、2002年2月、ILOにより、「グローバル化の社会的側面に関する世界委員会」が設立され、2004年2月に報告が取りまとめられました。この報告は、グローバル化が人々に与える影響を冷静に分析しつつ、公正で人間中心のグローバル化を実現するための新たな視点を提供する画期的なものです。また、本年のILO総会では、この報告書を踏まえ、「公正なグローバル化」の具体的な目標として、ディーセントワークすなわち人間らしい仕事をすべての人々に与えることを目標とすることが提起されました。本シンポジウムの議題の一つであるグローバル化の議論に当たっては、これらの点が一つの出発点に当たると考えています。

グローバル化と若年雇用

次に、「グローバル化と若年雇用」です。この問題は、今、全世界が共有する課題です。過去10年間、若年者の失業率は増加し続けています。2003年には全世界で8,800万人の若年者が失業しています。また、仕事を見出した場合でも、多くの若者が長時間、低賃金の労働を余儀なくされているなど、厳しい状況に置かれています。このように、若者は、労働市場へ新規参入する弱い立場にあることから、グローバル化の負の影響を受けやすい状況にあります。一方で、若者は柔軟性・創造性を有しており、その能力を十分に発揮することができれば、経済社会を活性化する原動力となりうる貴重な「資産」です。こうした視点に立って、政府や労使、国際機関などが若年者雇用問題についてどのように取り組んでいくべきかという点について、特にエンプロイアビリティの向上を中心にご議

論いただければと存じます。

こうした問題意識のもと、本シンポジウムでは、1日目のセッションでは「グローバル化と仕事の世界」を、2日目のセッションでは「グローバル化と若年雇用」をテーマに議論を進めていくこととしています。

第1日目について

1日目のテーマ「グローバル化と仕事の世界」に関しては、まず、ハンス・ファン・シンケル国連大学学長から、「公正なグローバル化に向けて」と題してスピーチが行われた後、ファン・ソマビアILO事務局長が、「グローバル化と若者の未来」というテーマで基調講演をすることとなっております。

その後、労使や学識経験者、世界委員会の委員を交え、「グローバル化と仕事の世界」をテーマにパネルディスカッションが行われることとなります。ここでは、学長及び事務局長の講演を踏まえ、さらに議論が深められていくことが期待されます。

第2日目について

2日目のテーマは、「グローバル化と若年雇用」です。

まず、ILOのステュワート局長から、「グローバル化する世界における若年雇用の重要性」について報告が行われます。

次に、日本及びアジアの3か国から、若年雇用・能力開発対策に関し、自国の状況や取組実績を紹介していただきます。ここでは、若年雇用問題について、実践的な知識と経験を各国、労使及び国際機関及びシンポジウムに参加しているみなさんが共有することを目指しています。

さらに、「若者の声」と題して、日本の若者たちが仕事に対する思いや、彼らの頑張りを支えている人や言葉について語ります。若年雇用問題は、とすればネガティブなイメージが付きまといがちですが、現場の第一線で活躍している若者の輝く姿をご覧いただきたいと思います。

以上を踏まえ、「グローバル化と若年雇用」をテーマとするパネルディスカッションを行います。このディスカッションでは、エンプロイアビリティを向上させることを通じて若者がいきいきと働き開花する社会を創造していくために、若者自身、政府、労使、国際機関などが果たすべき役割について議論し、若年雇用問題の解決に向けて方向性を模索していただきたいと思います。

2日目の最後に、本シンポジウムにおける議論を踏まえた総括文書を、私から発表させていただきます。2日間にわたるプログラムの中で、グローバル化と若者の未来について、両者の接点や対応方策についてさまざまな角度から活発な議論が行われ、その成果がアジア、ひいては世界の人々に向けた前向きなメッセージとして取りまとめられることを強く期待しています。

本シンポジウムが実り多きものとなるよう、みなさま、どうぞご協力をよろしく願い申し上げます。